

みすずかる信濃 信濃の鉄を象徴する褐鉄鉱

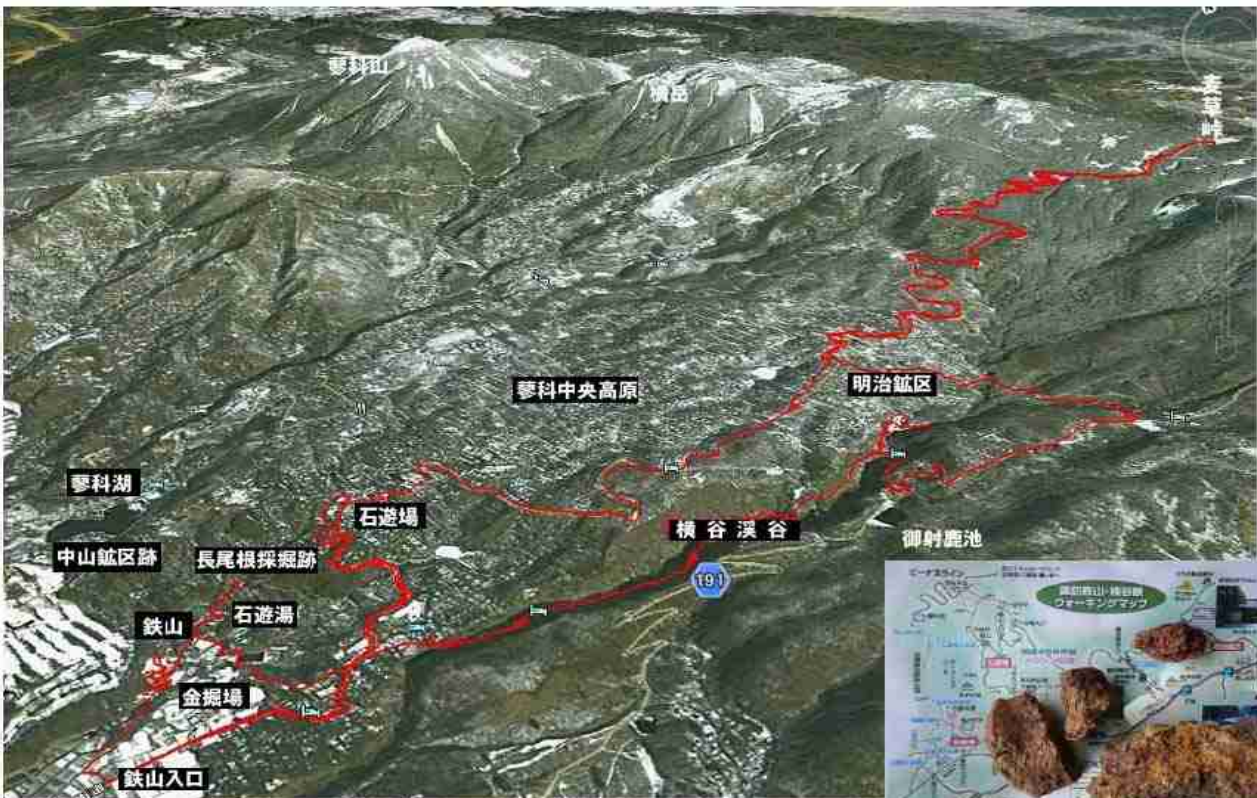
2010.10.17.

旧諏訪鉄山の痕跡を南ハヶ岳山麓 蓼科中央高原を訪ねる

長野県茅野市 北ハヶ岳連峰の西山麓の山中に 山藪がない自然に手が加えられた高原 蓼科中央高原があり、今は広大な別荘地が森の中に広がっているが、かつて 信濃を代表する褐鉄鉱の露天掘り鉱山「諏訪鉄山」があった場所 大地に刻まれたこの人の手は 高度成長期の別荘地開発の遺構なのか??

それとも 旧諏訪鉄山の鉱石採掘の遺構なのだろうか??

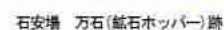
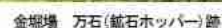
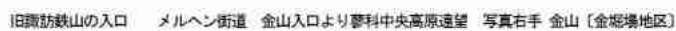
砂鉄採取によってできた中国山地の草原にも似た不思議な地形である



山の中に広大な平坦地が広がる基料中央高原。かつての錫鉄鉱 諏訪鉱山があった地である。この人工的な地形は、旧諏訪鉱山が作った痕跡なのだろうか……



源訪鉄山周辺で採取した襖鉄鉱状石片





琴科中央高原東北の縁の下 渋川上流 横谷溪谷奥 旧諏訪鉄山明治鉱区周辺に広がる別荘地の一角で



琴科中央高原 緑山周辺 旧諏訪鉄山 石遊場周辺に広がる別荘地の一角で



基科中央高原 メルヘン街道 石遊場「石安場の万石跡」

「石安場の万石」周辺を整備する保存会
から、斜面地帯に広がるのが特徴



紅葉の中 基科中央高原 麦草峠を越えて 諏訪と佐久を結ぶ 国道 299 号線 メルヘン街道は旧諏訪鉄山の鉱区の中を突き進む

鉄分の沈殿で まっ赤な谷「横谷溪谷」の河床周辺の岩には「チャツボミゴケ」の付着する緑の岩が点々と 赤い谷が一層鮮やかに

これも 鉄分を含む強い酸性の温泉水が作り出した自然の技



横谷溪谷の源流 逆川の川底の岩にびっしり張り付いたコケ状の植物で川は深い緑色
岸边には表面が赤茶けた色の石がゴロゴロ

2010. 10. 17. 横谷溪谷の源流 逆川の逆川橋で

私は良く知らなかったのですが、この植物は「チャツボミゴケ」といい、硫黄泉などの酸性泉に限って生育する特殊なコケで、鉄を溶かし込む鉄泉が流れ込む川原にも河原の岩にびっしり付着し、ピロードのように敷き詰められた河原と流れが形成され独特の景観をみせるところがあると。
〔 草津の近く群馬県六合村 この洗川の緑も知る人ぞ知る群生地だそうだ



酸性の水質で育つチャツボミゴケが河床を緑に染めて 谷の紅葉と相まって 赤い鉄の谷を一層素晴らしい景観に

奥夢科 横谷溪谷で 2010. 10. 17.

表草峠 日向大場展望台からのアルプス展望 (1) 2010.10.17

南西側 南八ヶ岳・南アルプス・中央アルプス



南八ヶ岳連峰



南アルプス北部



中央アルプス

表草峠 日向大場展望台からのアルプス展望 (2) 2010.10.17

北側 北アルプス 穂高・槍



紅葉が美しい鉄の赤い谷「横谷溪谷」



オシドリ隠しの滝



王滝



一枚岩



霧降りの滝



乙女の滝



明治温泉の横にかかる「おしどり隠しの滝」遠望 20210. 10. 17.



表面が鉄分で赤くなった岩の間を流れ下るオシドリ隠しの滝 岩壁に点々と緑のチャツボミゴケが張り付いている 2010. 10. 17.



紅葉が美しい鉄の赤い谷「横谷溪谷」 2010.10.17.



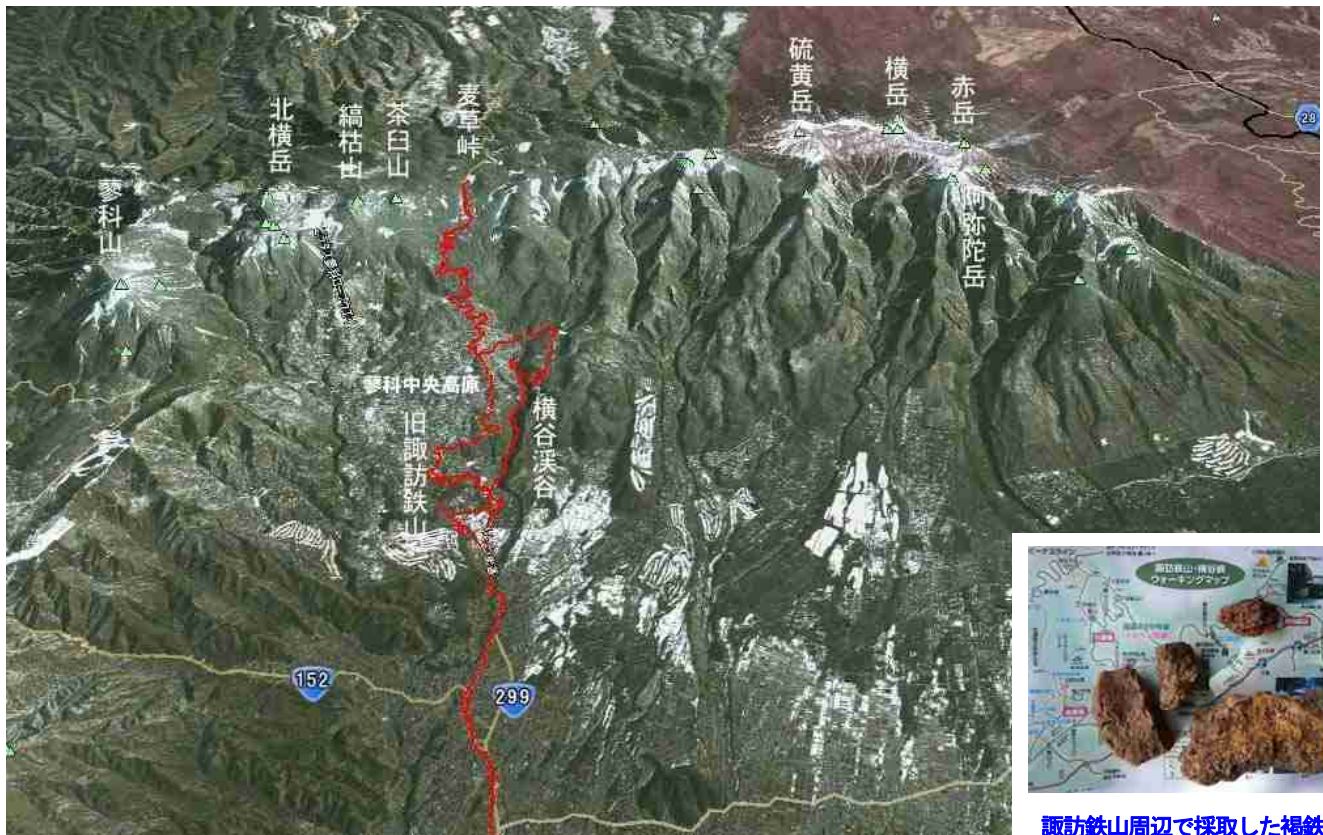
横谷温泉下 横谷溪谷 渋川の流れ



乙女の滝 江戸時代に作られた用水 人工の滝と聞く

みすずかる信濃 信濃の鉄を象徴する褐鉄鉱

2010.10.17. by Mutsu Nakanishi



諏訪鉄山周辺で採取した褐鉄鉱



諏訪鉄山関連遺構が点在する夢科中央高原・鉄の赤い谷「横谷溪谷」

長野の古名〔信濃（科野）〕信濃の枕詞「みすずかる」は「鉄」との関係が深く、信濃は褐鉄鉱の産地として古くから良く知られたところ。出雲の神が祭られる諏訪大社の存在もこの「信州の鉄」を求めて多くの人が入ってきた証しとも言われる。この褐鉄鉱鉱床は、鉄を含んだ温泉水などが空気に触れて 酸化したり、バクテリアの活動で急速に形成され、沼地や湿地に堆積して形成された（沼鉄）といわれ、信濃では、火山群そして温泉が連なる八ヶ岳連峰の南山麓や千曲川が流れ下る善光寺平の縁の山麓などがその産地である。

この褐鉄鉱床の形成には、この信濃が本州中央部を南北に横断する大地溝帯「フォッサマグナ」地域のほぼ中央部に位置することと密接に関係しているといわれる。

このホッサマグナ帯の西側の縁は糸魚川-静岡構造線（糸静線）という名前の大断層で、糸静線は日本海側の糸魚川市から南下して塩尻市へ、そこで南東に向きを変えて諏訪湖を通り韮崎市に達し、再び南下して太平洋側の静岡市へと続く。

この断層は北米プレートとユーラシアプレートの接するプレート境界であると考えられていて、この断層の西側に北アルプスや南アルプスがそびえている。（なお、ホッサマグナ帯の東側の縁はどこののか、定説がないという）

いずれにせよ地殻変動・火山活動が活発に起こった場所で、温泉も多い地帯であり、数々の鉱物資源帯がこのフォッサマグナ帯周辺に形成され、信濃の褐鉄鉱もそのひとつである。

東海の高師小僧 伊那の鬼板 そして「信濃の褐鉄鉱」と続く褐鉄鉱の産地ベルト。

数々の「鉄関連伝承」から、「信濃の褐鉄鉱」が古代製鉄の製鉄原料となったのではないかと ・ ・ ・ といわれながら、「製鉄」特に「たたら製鉄」との関係はよく判っていない。

（褐鉄鉱は砂鉄や鉄鉱石と比べ、鉄の品位が低く、予備処理が必要だったり、品質の良い鋼が作りにくいことなどから、たたら製鉄の原料とはならなかったとの見方もあるのですが、私は 日本各地に残る古い製鉄関連伝承などを考えると たたら製鉄の黎明 プレたたら・野たたらの時代には 製鉄原料として使われた可能性があるのではないかと考えている。）

最近 ハケ岳・霧ヶ峰周辺の縄文遺跡や黒曜石の原産地などの確認に挑んでいたハケ岳周辺の国土地理院の2万5千分の一地図で、ハケ岳南麓 尖り石縄文遺跡の西側 メルヘン街道が走る蓼科中央高原の一角に「鉄山」の地名を見つけました。



インターネットで調べると ここが太平洋戦争時の鉄不足をカバーする「諏訪鉄山」跡で、大量の褐鉄鉱の露天掘りが行われた場所で、現在 蓼科山への観光道路 ロマンチック街道はこの諏訪鉄山の鉱石を運ぶ鉄道の跡地。そして、広大な高原別荘地が広がる蓼科中央高原には もう痕跡がほとんど残っていないが、かつての諏訪鉄山の鉱区が点在する場所だと知りました。

わかりやすい鉄山ガイドの小冊子も出されている。また、数年前 茅野のハケ岳総合博物館で「諏訪鉄山」の企画展も開かれたという。

〔蓼科中央高原 諏訪鉄山散策ガイド〕

<http://www.tateshinachuoukougen.com/tetuzan.html> 〕

また この蓼科中央高原の東縁 蓼科山など北ハケ岳と天狗岳・横岳・赤岳など岩稜が立ち並ぶ南ハケ岳の境界を諏訪湖に注ぐ渋川が流れ下り、幾つも滝が架かる深い横谷溪谷をなす。 その河底には 水に溶け出た鉄分が空気酸化され、褐鉄鉱として河底に沈殿し、美しい赤い溪谷をなしている。

何度も訪ねたことがあるハケ岳周辺ですが、諏訪鉄山がこの北ハケ岳の南東山麓の高原地帯に眠っているとはまったく知りませんでした。

ちょうどこの秋 信州長野で大学仲間の同窓会があり、その帰りに1日として、紅葉真っ盛りの蓼科高原に旧諏訪鉄山跡を訪ね、また 溶けこんだ鉄が河床に沈殿し、真っ赤に見える赤い鉄の溪谷 「横谷溪谷」を訪ねました。

今は広大な別荘地が広がる蓼科高原の中に埋没してしまった旧諏訪鉄山ですが、いたるところに褐鉄鉱の存在を思わせる赤茶けた鉄色の塊がゴロゴロ。鉄色に染められた赤い溪谷〔横谷溪谷〕の素晴らしい景観とあわせ、この鉄山周辺一帯がみずずか



る信濃の鉄の代表だとおもわせる楽しい鉄山歩きでした。

また、後日談ですが、横谷溪谷でであった鮮やかな緑のチャツボミゴケの存在も知りませんでした。

「横谷溪谷」は川底一面が抹茶になっていると想像していたのですが、まっ茶の岩肌と共に いたるところで、岩が鮮やかな緑のコケ類で覆われていました。「この緑は酸性の強い草津温泉の川原で見たことがある。」と。

帰って調べるとやはりこのコケは、チャツボミゴケといい、硫黄泉などの酸性泉に限って生育する特殊なコケで、鉄を溶かし込む鉄泉が流れ込む川原には岩に付着したこのコケでピロードのように敷き詰められた河原が形成されるところがあると。真っ赤に紅葉した谷筋をバックに 褐鉄鉱の赤茶とコケの緑の中を真っ白なしぶきを上げて川が流れ下る。

本当に素晴らしい景観 山に堆積した鉄分がこんな素晴らしい景観をつくるとは・・・とびっくりでした。



酸性の水質で育つチャツボミゴケが河床を緑に染めて 赤い鉄の谷を一層素晴らしい景観に
奥蓼科 横谷溪谷で 2010.10.17.

「鉄山・横谷溪谷も行きたいし、鉄色をした温泉にも入りたいし、八ヶ岳の上からの展望も楽しみたい。」

バスの便がそれほどないので、どうするかインターネットでダウンロードした諏訪鉄山散策ガイドと蓼科高原を奥へ登るバスの時刻表とくびききでコースを考える。

早朝 6時45分茅野駅初の野麦峠行の一番バスで 歩くコースの状況をチェックしながら野麦峠まで行って、野麦峠からの展望を楽しんで、引返すバスで途中横谷溪谷の一番奥に近い「冷山口」でバスを降りて、横谷溪谷を下って、そこから諏訪鉄山跡一帯に入る行程が一番効率がいい。このコースで歩こうと決める。

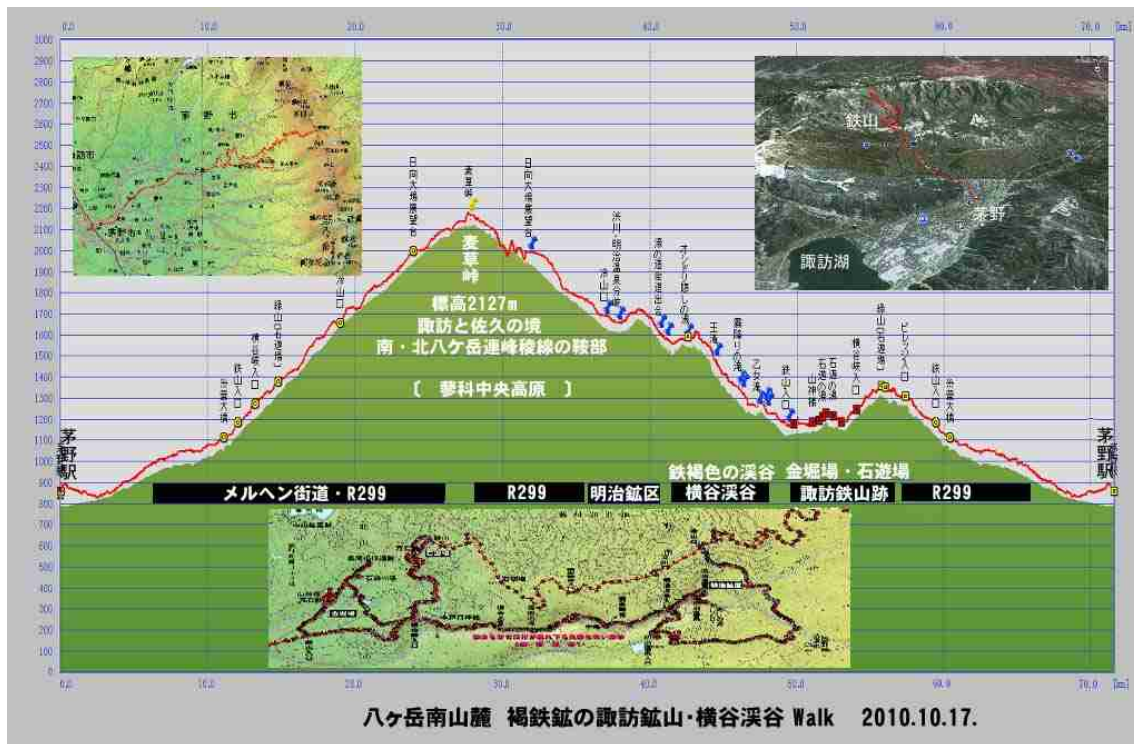
何度かこの周辺は来ているので、ある程度土地感もあるので、出たとこ勝負。天気は快晴のようだし、横谷溪谷の紅葉は今が一番と聞き、楽しみである。



1. 諏訪の茅野と信州佐久を結ぶメルヘン街道を 北・南八ヶ岳稜線の鞍部 麦草峠へ
2. 冷山口から 褐色の鉄の谷「横谷溪谷」を 紅葉と滝そして鉄の痕跡を楽しみながら下る
3. 鉄山口から諏訪鉄山跡
そして 鉱山跡に湧き出る鉄泉「石遊の湯」を訪ねる

【参考資料】

1. 諏訪鉄山散策ガイド 蓼科中央高原観光協会
2. 企画展「諏訪鉄山」資料 八ヶ岳総合博物館
3. 長野の大地みどころ100選
「柏原鉱山」〔褐鉄鉱〕
4. 八ヶ岳 自然を楽しもう
八ヶ岳教本編集委員会編



1. 諏訪の茅野と信州佐久を結ぶメルヘン街道を北・南八ヶ岳稜線の鞍部 麦草峠へ



麦草峠周辺から流れ下り、茅野から諏訪湖に注ぐ渋川にかかる鬼場橋周辺

10月17日早朝 麦草峠行のバスに乗り、まだ 朝もやが煙る中を真っ直ぐ東へ。 国道152から国道299 メルヘン街道を麦草峠のある八ヶ岳山麓へ向かう。

市街地を抜けて 渋川にかかる鬼場橋を渡ると蓼科の南西山麓に広がる広大な蓼科の丘陵地丘陵地 畑の向こう左手にぽっかり蓼科山南八ヶ岳の岩峰も霧の中に頭をだしているのが見え隠れ。

茅野から15分ほどで 広大な緑の畑が広がる丘陵地の真ん中へ登る。

八ヶ岳の峰の頭が丘陵地の向こうに頭を出す。

蓼科の山裾も随分近く見え出した糸萱の集落をぬけると「鉄山入口」のバス停を通過。 資料によるとこのバス停の右側の丘陵地一帯が 太平洋戦争の最中 最盛期を迎えた褐鉄鉦生産の諏訪鉄山の中心部 金堀場である。



メルヘン街道 鉄山入口周辺 2010.10.17

随分バスはさらに山に近づき、Y字路に突き当たったところが「横谷峡入口」のバス停。

Y字のところに大きく蓼科中央高原と書かれた案内板があり、右手に行くと尾根の右側に沿って横谷溪谷。左手に行くといよいよ尾根筋を登って麦草峠に向かう。



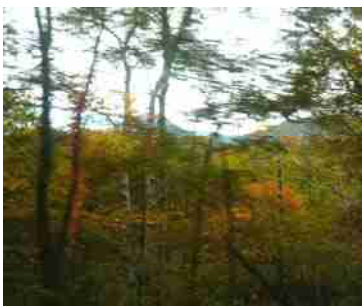
蓼科中央高原 「横谷峡入口」 2010. 10. 17.

山腹の林の中を縫って 素晴らしいドライブウエーが続く。このあたりは蓼科の巨大な別荘地が山腹に広がり、2万5千分の1の地図では山腹を段段に網の目のように張り巡らされた道に点々と別荘が見えるのですが、林の中に埋没してしまっているのか ほとんど気にならず。紅葉を始めた山腹を上へ上へと登って、まもなく緑山のバス停で、ここを左へ蓼科湖へ行く道を分岐して、さらに紅葉した林の中を登ってゆく。白樺のまじった紅葉が素晴らしい。



周囲は紅葉した森の中に別荘が点在する この周辺の山中でも かつて褐鉄鉱の露天採掘〔石遊場・明治鉱区〕

横谷峡入口の別れから 10 数分 別荘地が点在する紅葉の林の中を登って、右手に渋川口・奥蓼科温泉への道冷山口を分岐すると別荘地が続く森を抜け、少し視界が開けて山腹を巻きながら更に登ってゆく。ところどころで 樹木の間から 遠く雲海に浮かぶアルプスの山並みがみえるが、山腹の反対側の樹木にさえぎられて良く見えない。



紅葉の間からはちらちら蓼科山が見えるが、反対側の南八ヶ岳の岩峰は山腹にさえぎられて 見えない

ちらちらと遠く西の雲海の上に浮くアルプスの峰々がちらちら見えてくともう麦草峠も近い

山腹を巻きながら横谷峡入口をバスが登り始めて、約 40 分ほど諏訪 茅野市から佐久平側の 佐久穂町の標識がでると直ぐ麦草ヒュッテ前の麦草峠終点に到着。



佐久側の佐久穂町の標識を過ぎて直ぐ麦草ヒュッテの前がバスの終点麦草峠

結局 朝が早かったこともあるが、横谷峡入口からは麦草峠まで、私一人だけ。

麦草峠は 峠というより山の鞍部状少し広がった広場にヒュッテがあり、その前を諏訪から佐久への道が通じているのみで、周囲の樹木に包まれて展望は利かない。ヒュッテのご主人に展望が利く場所を聞ききましたが、この近くにはないと言う。



諏訪と佐久 北八ヶ岳と南八ヶ岳の十字路 標高 2127m 野麦峠

もう少し 先へ行が 旧の野麦峠と記されていて、もう少し佐久側に行けば 展望が開けるのですが、今回の目的は諏訪鉄山。折り返しのバスに乗り遅れると鉄山へ行くのが遅くなる。でも、やっぱり アルプスの展望を眺めたい。

やむなく、登ってくる時にチラッとみつけた展望台（日向大場展望台）まで、私のイメージでは 20 分ほど歩いて戻れそうなので、40 分ほど後の 8 時 30 分に引返すバスの運転手さんに途中 展望台周辺で手を上げるので拾ってくれるよう頼んで 麦草峠から展砲台まで引返す。まだ、朝が早いので、登ってくる車も少ない。

途中バスで拾ってもらえる交渉がついたので、ドライブウェイの下りを楽しみながら日向大場の展望台へ。

途中 アルプスの峰々が雲海に浮かぶのが見られ、紅葉を楽しみながらの Walk を楽しみながら、南西山腹をめぐるドライブウェイを 20 分ほどで、山腹が西に突き出たところ標高約 2000m の日向大場展望台につく。

展望台からは 正面左手 山腹の向こうに南八ヶ岳の頭が顔を出し 南アルプス・中央アルプス・御嶽山 そして 右手奥に思いがけず 朝日に輝く北アルプス 穂高連峰・槍の姿が見えました。 本当にラッキーでした。



麦草峠から日向大場展望台まで 山の紅葉を眺めながら少し降る 2010. 10. 17.
ドライブウェイの道端にはメルヘン街道の標識の下に標高が示されている〔下左〕



南ハケ岳連峰



南アルプス北部



中央アルプス



北アルプス 穂高・槍

期待通りの雲海に浮く素晴らしいアルプスを眺められてラッキーでした。

ここは バス停がないので、ドライブウェイに出ておかないと置いてきぼりになる。

8時40分過ぎ 麦草峠8時30分発のバスが下ってくる。手を上げてバスに乗せてもらう。

帰りは北ハケ岳の山々が正面に顔を出すのを眺めながらの降利である。

10分ほどでまたまた、紅葉の森の中に入るとまもなく冷山口。

ここで 降ろしてもらって、左手の南斜面に広がる別荘地の中を渋川が流れ降る赤い渓谷「横谷渓谷」へ

いよいよ 諏訪鉄山跡周辺の walk をはじめる。



麦草峠からのくんだり 今度は正面に南ハケ岳が顔を出す 2010. 10. 17.

2. 冷山口から 褐色の鉄の谷「横谷溪谷」を紅葉と滝を楽しみながら下る

2.1. 冷山口から紅葉の森 諏訪鉄山明治鉱区跡を抜け、横谷溪谷へ

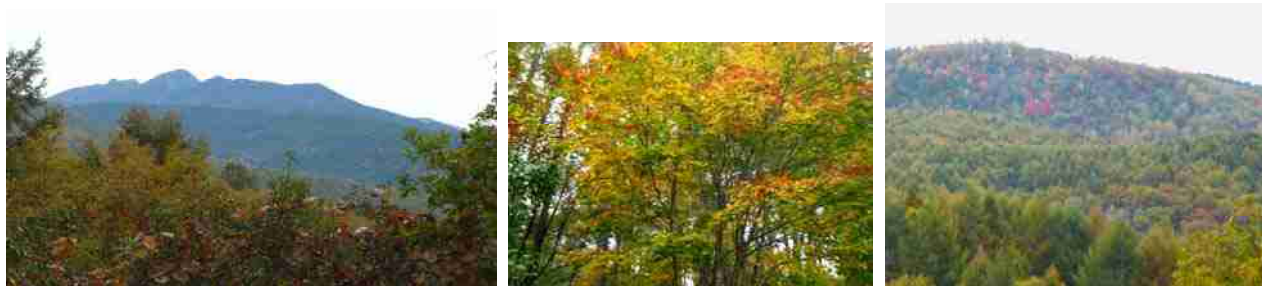


17日朝8時50分 麦草峠から茅野へ降るバスを冷山口で降りて、左手の森の中 渋川が流れ降る横谷溪谷へ下っていく。

この山の斜面一帯には紅葉が素晴らしい森の中別荘地がひろがる一本道。紅葉した木立が美しい。別荘が林の中に点在しているのがちらちら見えるが、地番を示す立て札は立っているが、道の案内板まったくなし。幹線の道を外れ別荘地の中に入り込むと大きな区画に区切られた林の中 網の目のように道がはりめぐされ、人っ子一人いない森の中。迷い込むとどこに出るか解からない。地図を眺めながら降る。また、この道の左手に山腹北斜面が広がる冷山は縄文時代の石器材料 黒曜石の原産地でもあるという。



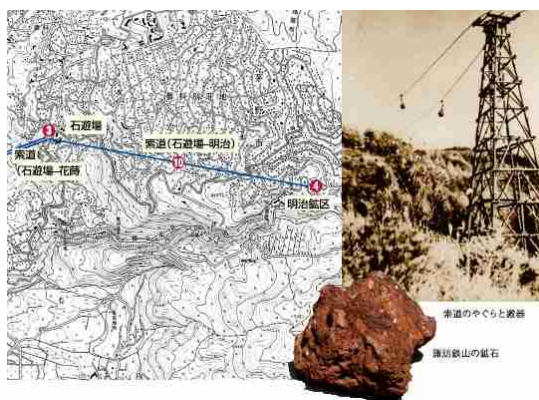
冷山口バス停直ぐ下に奥茅科温泉郷に行く案内板があり、そこから左手 別荘地が続く森の中に入る



林の中を快適に降ってゆく。
紅葉した木々の間から別荘の建物が見えるのは西洋の絵画を見ているようだ。
正面に時折山が顔を出すのですが、本当に真っ赤。
南八ヶ岳の岩峰も顔を出す。

冷山口から 15 分ほどゆったり散策を楽しんだところで、
渋川温泉から横谷溪谷を経て溪谷の入口に出る道と
奥蓼科温泉郷・明治温泉などの横谷溪谷最奥部への分岐にでる。

このあたりから下 渋川にかけての山腹が諏訪鉄山の明治
鉱区の位置で、ここからは 空には褐鉄鉱石を運ぶ索道が
諏訪鉄山の石遊場から山裾の花蒔が通じていたという。
ぐるりと周りを見渡すが、今はまったくそんなおかげも
ない森の中。静まりかえった山の別荘地の中の道である。



諏訪鉄山散策ガイドより かつての諏訪鉱山の索道



冷山口から 15 分ほど、渋川温泉から横谷溪谷を経て
溪谷の入口に出る道と奥蓼科温泉郷・明治温泉などの
横谷溪谷最奥部への分岐



この案内板で そのまま右手渋川温泉へ降ってゆけば、渋川温泉から渋川溪谷沿いの横谷溪谷散策路に入れたのですが、
溪谷の一番奥にある明治温泉への標識が左手になっていたの
で奥蓼科温泉郷側から行くことにした。

その時はまだ 気がついていなかったのですが、考えてみれば このあたり歩く人などおらず、自動車のための案内板でした。 地図を確認しなかった失敗。車で最奥の明治温泉とその裏にあるおしどり隠しの滝

へは 右側へ折れると行けない。真っ直ぐ奥蔭科温泉郷へ行く道は この谷から一旦山越えて 渋川の本流が流れ下る湯のみち街道側に出て、湯の道側から横谷溪谷の最奥部 明治温泉まで行く車道でした。

別れからそのまま更に少し下がったところで、逆川橋に出合う。このサカサ川は横谷溪谷の上で渋川に注ぐ源流で この逆川を真っ直ぐ下ると明治温泉である。道はこのサカサ川を渡って真っ直ぐ山越えているのに気がついて今いる場所がはっきりした。

褐鉄鉱で赤くなっているか・・・と川を覗き込んでびっくり。岸の赤茶けた岩に 川の中は深い緑色。 浅い川でこの緑は異常である。

よく見ると この鮮やかな緑は透明な水の流れの中にある岩の表面に何かコケ状の植物がびっしり張り付いている。

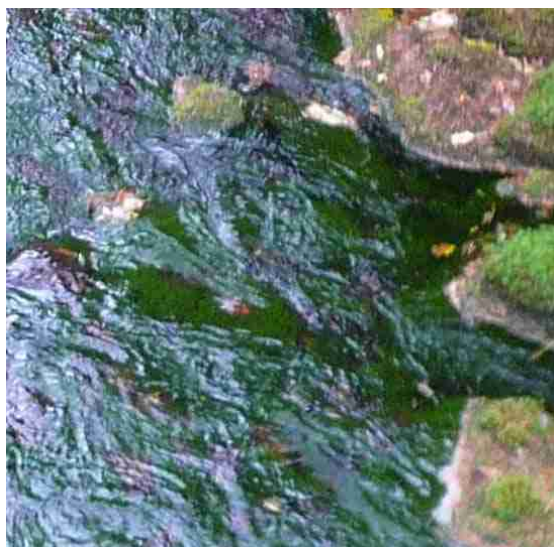
この逆川は「逆川が渋川本流の源流部よりも 鉄分を含むきつい酸性泉を川に流し込んだことが、横谷溪谷「赤の谷」の景観を作った褐鉄鉱沈殿の一因」と資料でよみましたが、それとこの川の緑色と関係があるのだろうか・・・。

赤い鉄の谷の特徴か・・・・・・。 そういえば 酸性度の高い草津温泉の川でもこんな光景を見た記憶がある。

そんなことを川を覗き込みながら考えていました。



褐鉄鉱の赤い谷 横谷溪谷の源流 逆川 逆川橋



横谷溪谷の源流 逆川の川底の岩にびっしり張り付いたコケ状の植物
で川は深い緑色 岸には表面が赤茶けた色の石がゴロゴロ

2010. 10. 17. 横谷溪谷の源流 逆川の逆川橋で

私は良く知らなかったのですが、この植物は「チャツボミゴケ」といい、硫黄泉などの酸性泉に限って生育する特殊なコケで、鉄を溶かし込む鉄泉が流れ込む川原にも河原の岩にびっしり付着し、ビロードのように敷き詰められた河原と流れが形成され独特の景観をみせるところがあると。〔 草津の近く群馬県六合村 この渋川の緑も知る人ぞ知る群生地だそうだ

逆川橋を横切って 山腹を巻きながら尾根筋を越えるとメルヘン街道と横谷溪谷を挟んで反対側の左岸の山腹を登って本流の最奥の渋温泉に向かう湯みち街道との出会いに出て、ぱっと視界開ける広い谷筋となる。気がつかない間に 森の中で渋川の本流部も渡ってしまっていた。 この出会いから湯のみち街道を明治温泉に向かって下る。

ところどころの道端に石仏がかざられ、対岸の山の紅葉が素晴らしい。



渋川本流の最北部 渋温泉に向かう湯のみち街道との出会い周辺



湯のみち街道沿いには石仏がところどころに祭られ、谷の反対側の紅葉が美しい

湯のみち街道から少し下るとジグザクのヘアピンカーブの急な坂で山腹を折て行く。カーブの突端からは遠く南アルプスを背に茅野の町がみえ、まだ、随分高い位置に居ることがわかる。

今秋 まだすすきを見る機会がなかったが、きれいなすすきが風にそよいでいる。



湯のみち街道 冷山の山腹をジグザクに下る峠道からはと浮くアルプス・茅野の街が見晴らせました

まだまだ 森の中を歩いてきて どの程度下ったのかよくわかりませんでしたが、まだまだ 高い山の中
また、下左写真の左手山中に小さな池が、横谷溪谷を挟んで明治温泉の対岸周辺の湯の道のそばにある御射鹿池

地図を出して 位置の確認をする。

この山腹をジグザクの坂を下りきったところが明治温泉入口で 眼下に左手の山中に見えている池が 明治温泉下の横谷溪谷の南岸の山腹にある「御射鹿池」。 まだ 随分下である。

これも後で知ったのですが、前日長野の東山魁夷美術館で見た「白い馬の見える風景」のモデルになった池だと。「知っていたなら 立ち寄ったのに」とちょっと残念。



「白い馬の見える風景」のモデルになった「御射鹿池」

麦草峠からメルヘン街道を下って 冷池口から歩き出して約1時間。

ジグザクの坂を下ると、正面に横谷溪谷の崖が現れ、道が 90 度折れ曲がって更に下ってゆく。 その曲がり角に車が数台とまっていて、その横に明治温泉の案内板が立っている。

ここから、右に溪谷の崖に沿って歩けば明治温泉。

鉄の赤い谷 横谷溪谷の上の入口である。



湯のみち街道 明治温泉入口 2010. 10. 17.

車はここでストップ 入れないが、右へ崖沿いの細い道を入れば 明治温泉である





オシドリ隠しの滝



王滝



一枚岩



霧降りの滝



乙女の滝



横谷峡の上流側から入って、溪谷沿いにつけられたハイキング路を通して、下流側の横谷峡まで歩く。

横谷川沿いには渋川に温泉水をながしこむ温泉が幾つもあり、また、周辺の山はかつて褐鉄鉱を産出した鉄の山。

このため、横谷峡の水質は鉄分を豊富に含む酸性となり、空気に触れると水酸化鉄を析出し、岸边にある岩石の表面を褐色に染め、赤い谷を形成する。また、この酸性度の高い水は「チャツボミゴケ」を大発生させ、河床や、岸边の岩を緑に染める。

「紅葉に彩られた狭い溪谷をつくる渋川の流れ

鉄分で赤く染まった川床を緑の岩に水しぶきをあげながら 素晴らしい滝となって流れ下る

古いハケ岳の噴火で形成されたこの蓼科高原の特徴が結実した 素晴らしい鉄の赤い谷 それが横谷溪谷。

そして 周囲の山に大量に埋蔵された褐鉄鉱石が諏訪鉄山の名で掘り出された。

「信濃の鉄」「みずずかる信濃」を強く印象付けるのが、「鉄の赤い谷 横谷溪谷」。

諏訪鉄山とともに この一帯に豊富にある褐鉄鉱と密接に関係した横谷警告 期待一杯で歩き始める。

【 横谷溪谷の概略 】：『ハケ岳 ー自然を楽しもうー』ハケ岳教本編集委員会【編】ハケ岳の地質及び気候 より

「横谷溪谷」は 麦草峠を分水嶺として 西側に向かって流れる渋川にありある。水量は豊富で、ほとんどが溪流といっても過言でないほどの溪谷で 乙女滝・霧降の滝・王滝・おしどり隠しの滝のある約3km におよぶ範囲を、横谷溪谷と称する。川に沿って、四つの滝を巡る遊歩道が整備されているが、上流部の王滝からおしどり隠しの滝のある明治温泉までは登坂勾配がきついところで、ハイキングのいでたちが必要である。



渋川は源流部の岩質と流れ込む温泉水によって 流域で水質が変わっている。

渋川源流の中山からの流水はpH=6. 8なのですが、渋の湯の上周りで硫化水素が溶けてpH=3. 3となり、更に渋の湯で硫黄泉pH=2. 7が流入して河床を約500m白濁し、さらに1. 2km下流の明治温泉上方で褐鉄鉱を溶かした逆川が流入すると河床を赤褐色に変え pH=3. 3となり、鉄山入口下の糸萱で 角明川と合流するまで続く。

この赤い鉄の谷「横谷溪谷」周辺にある温泉の主要特徴を資料より抜き出して 書き記すと次の通りである。

横谷峡に沿ってある蓼科温泉郷の温泉の特徴概略

温 泉	温度	泉質	PH	
渋御殿温泉	22.7℃	硫黄泉	ph 3.8	渋川源流
渋川温泉	23.4℃	鉄泉	ph 3.8	直ぐ近くに諏訪鉄山の褐鉄鉱採掘跡がある 逆川合流点の直ぐ下流
明治温泉	22.1℃	鉄泉	ph 3.8	直ぐ近くに諏訪鉄山の褐鉄鉱採掘跡がある 逆川合流点の直ぐ下流
横谷温泉	25.1℃	炭酸鉄	ph 5.2	
石遊の湯	64.2℃	Na－塩化物 ・硫酸塩泉	ph 6.9	褐鉄鉱の諏訪鉱山跡から湧出 透明ですが、多量に鉄分を含み 空気に触れると水酸化鉄を沈殿し、湯底の石が褐色

9時45分 湯のみち街道 明治温泉入口から 溪谷にへばりついてつけられた道を明治温泉に向かって歩き出す。道は急な下り坂。直ぐに谷の奥に赤い屋根の明治温泉の建物が見え、さらに奥に建物が見えているのが渋川温泉だろう。明治温泉は横谷溪谷の川底の縁にあるので、高度さ 25m ほどを一気に下ってゆく。

入口には一般車乗り入れ禁止の看板がありましたが、気をつけて そろそろ運転してゆけば、明治温泉の横まで行けそうである。

直ぐに狭い谷が見通せるようになり、真っ赤に紅葉した谷筋 明治温泉の直ぐ横で渋川に滝がかかっているのが見える。渋川が階段状になって、水しぶきを上げているのが見える。これが オシドリ隠しの滝である。

本当に周囲の山の緑に取り囲まれ、秘境の中の滝である。まだ 遠いので音は聞こえないが、深い谷にひと一筋の滝ここからは絵になる景色である。



明治温泉の横にかかる「おしどり隠しの滝」遠望 20210. 10. 17.



表面が鉄分で赤くなった岩の間を流れ下るオシドリ隠しの滝
2010. 10. 17.

10 分ほどで明治温泉の前を通過して川底に下りると直ぐ横に何段にも分かれて、流れ下るオシドリ隠しの滝が見渡せる。落差はさほどでもないのですが、水の轟きがひびきわたり、水に濡れて一層赤い岩の間をしぶきを上げながら白い糸が縫うように滝の釜をつなぐ。水に満たされた釜は透明なのですが、その底は深い緑に満たされている。滝の両側の渓谷は紅葉でおおわれ、岸の赤い岩の上のあちこちに緑のコケが群生している。現地に来るまでは 「紅葉した木々をバックに赤い岩肌で覆われた谷筋を水しぶきを上げて流れ下る」とイメージしていたのとはまったく違うのですが、素晴らしい色彩に満ちた谷。

鉄分を豊富に含む強い酸性の温泉水が流れ込む渋川 水しぶきを上げるこの水が空気に触れ、褐色の水酸化鉄を析出し、川床や岸边にある岩石の表面を褐色に染め、赤い谷を形成する。そして、この酸性度の高い水は 緑のビロードを敷き詰めたチャツボミゴケを大発生させ、河床や、岸边の岩のあちこちを緑に彩る。それらに呼応して、谷筋の木々が真っ赤に紅葉する。

「これが、鉄の谷なんだ」と勝手な解釈 想像とはまったく違うその素晴らしさにしばし見とれていました。



川べりの水溜りをのぞくと 表面が茶色に変色した石や緑のコケが張り付いた石。これがこの景観を作っている。

上の写真右手から褐色の帯が川に流れ込んでいる。これは 明治温泉の御泉水がそのまま空気酸化され、褐色の水酸化鉄を析出しながら、渋川に流れ込んでいるのだろう。

いたるところ小さな水溜りで褐色の水酸化鉄が沈殿している。

これが、沼鉄の始まりと考えられ、川筋

の湿地などに流れ込んだ鉄分を含んだ水が長期にわたり繰り返し積み重ねられ沼鉄 そしい褐鉄鉱の鉱床が形成されていったと考えられる。いいかえれば、今も この川筋周辺では褐鉄鉱の鉱床形成が延々と続いているといえるのかもしれない・



この川筋のいたるところ 岩に張り付いたチャツボミゴケと水酸化鉄、

横谷峡のハイキング路はこの渋川をオシドリ隠しの滝の前で渡った対岸の川底から 10 数 M 上の崖の上を溪谷に沿って山腹にへばりついてつけられている。このハイキング路へ上る細い階段道がオシドリ隠しの滝の前から上へ登っている。



川底から 10 数 m 高いところ 横谷溪谷沿い 山腹に張り付いてつけられたハイキング路 2010. 10. 17.

ハイキング路にて、そのまま下れば、横谷峡入口なのですが、反対に少し登れば 先程 オシドリ隠しの滝の上側にチラッと見えていた渋川温泉。やっぱり 横谷溪谷の最奥 渋川温泉まで足を延ばそう。

地図によるとこの明治温泉周辺よりも谷筋が広がっていて、旧諏訪鉾山の明治鉾区の中で褐鉄鉾が掘られた場所周辺である。 朝冷山口からはこの渋川温泉の方へ道をとらず、真っ直ぐ渋温泉側へ行ってしまったので、この周辺の地形をまだ見ていない。また、資料によれば、渋川温泉のところから黒曜石の石器が出たようだ。



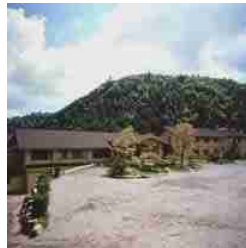
視界の利かない雑木林の中 横谷溪谷沿いの傾斜のきつい山腹に渋川温泉まで細い道が続く。 途中 山の斜面にぽっかり 穴が開いている場所があり、覗き込むと穴の中には赤茶けた石がゴロゴロ。どうも褐鉄鉾採掘跡のようだった。

5分ほどで不意に道の下方木々の間に渋川温泉の建物が見える。 渋川温泉の地域に入のですが、建物の正面の方へ折れる道がなく、メルヘン街道 渋川口から降りてくる車道との合流点まで行って旅館前の広場へまわりこむ。 人影がなくおかしいとおもっていましたが、旅館は閉鎖され、建物もあれていました。



渋川温泉への道との途中 山腹でみつけた褐鉄鉾の採掘跡らしき穴

2010. 10. 17.



閉鎖されて 誰一人いない渋川温泉周辺

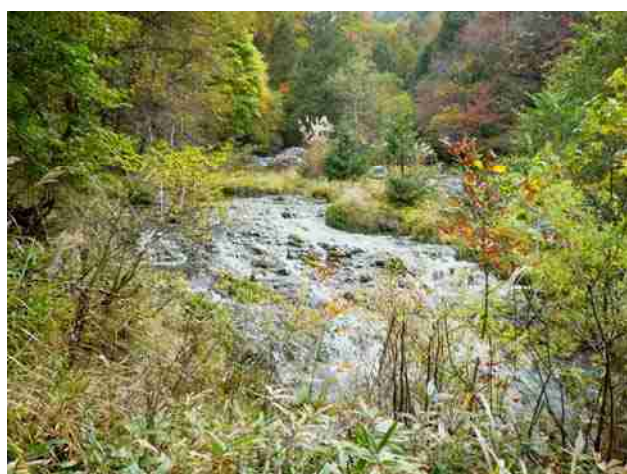


渋川温泉 閉鎖された旅館前の人工の滝 鉄分で抹茶色

渋川温泉の直ぐ下流の横谷溪谷は渋川温泉に入る直ぐ手前で終わり、渋川温泉のある渋川北岸側はなだらかな斜面が川に向かって広がっている。反対側は急斜面の山であるのと対照的である。旧諏訪鉄山の明治鉱区からは大量の褐鉄鉱が露天掘りされ、索道で 採掘された大量の褐鉄鉱が下流の石遊場へ送られていったというから、これによって形成された地形なのかも知れない。

全体地形がよくわからないが、地図で見ると中国山地の砂鉄採取地に特有の地形とよく似ている。

渋川温泉前の広場にある渋川遺跡の滝と称する人工の滝は流れ落ちる水の鉄分で岩肌が真っ茶色になっていた。また、インターネットで「温泉周辺の川筋の湿地に鉄分がたまった場所がある」とあったので川岸まで降りて 周辺を歩きましたが、見つけることは出来なかった。



渋川温泉横を流れる穏やかな渋川の流れ



岩や川底はここでも茶色にそまっていた 2010. 10. 17.



渋川温泉周辺も 美しく紅葉していました 2010. 10. 17.



もう旧諏訪鉄山明治鉱区の痕跡はありませんが、山中に突如現れるなだらかな地形と真っ赤に鉄分が張り付いた岩がその痕跡かもしれません。
この周辺の紅葉も最高でした。

すこし、この周りを歩き回って、横川溪谷のハイキング路にもどり、明治温泉との分岐までもどり、そこからは そのまま横谷溪谷の下流側へ、約1時間 赤い谷と滝を楽しみながら 赤い谷を下りました。

このハイキング路のあちこちで、大きな石が山の斜面に転がっていました。この横谷溪谷は八ヶ岳噴火の溶岩と火砕流が運んだ凝灰角礫岩が主で滝などで顔を出すとともにこのハイキングコースのあちこちでその露頭が見られると。

明治温泉へのT分岐を過ぎて少し行った山の斜面に大きな石がゴロツと。よく見ると表面が赤みがある。

褐鉄鉱石かとも思いましたが、どうも溶岩のようだ。



きつい傾斜の山腹につけられた横谷溪谷のハイキング路 時折巨岩が見られる



ハイキング路の道脇にゴロツと斜面から 溶岩露頭からすべり落ちた横谷峡を形成する溶岩だろうか??

前方の斜面の上方に幾重にも層状に固まった巨岩が見える。横谷溪谷溶岩の露頭なのだろう。

オシドリ隠しの滝の別れから 20 分弱で王滝の展望台へ降りる別れ。溪谷沿いの視界の利かない林の中ですが、木々を通して漏れくる光で紅葉が一層映える



層状の凝固境界が見える溶岩層の露頭



王滝への降り道

王滝への案内標識から、谷へ降りる道は急な階段状。 急な道を下ってゆくと木々の間から、抹茶色の川床から流れ落ちる王滝が見えた。このあたりの溪谷は急峻で川底までは降りられない。もう少し下ったところで滝の全貌が見えた。

「これは すごい」 鉄分の付着で真っ赤にな谷筋 その川床から滝が垂直に落ちている。

さすが 赤い鉄の谷 横谷溪谷の王者「王滝」と思える姿である。

こんなに鉄色にそまった谷を見るのは初めてのように思う。

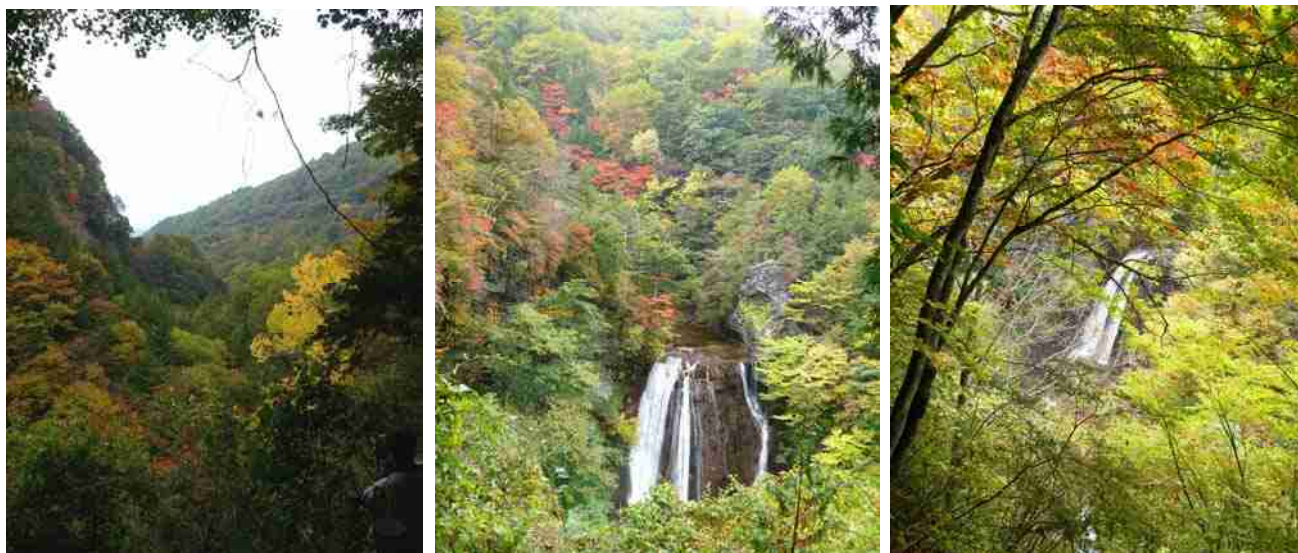
この王滝まで 下の「横谷峡入口」やメルヘン街道横谷観音から、広い散策路が通じているので、一気に人出が多くなる。



王滝への別れから谷へ降りる道 木々の間から「王滝」が現れた 2010. 10. 17.

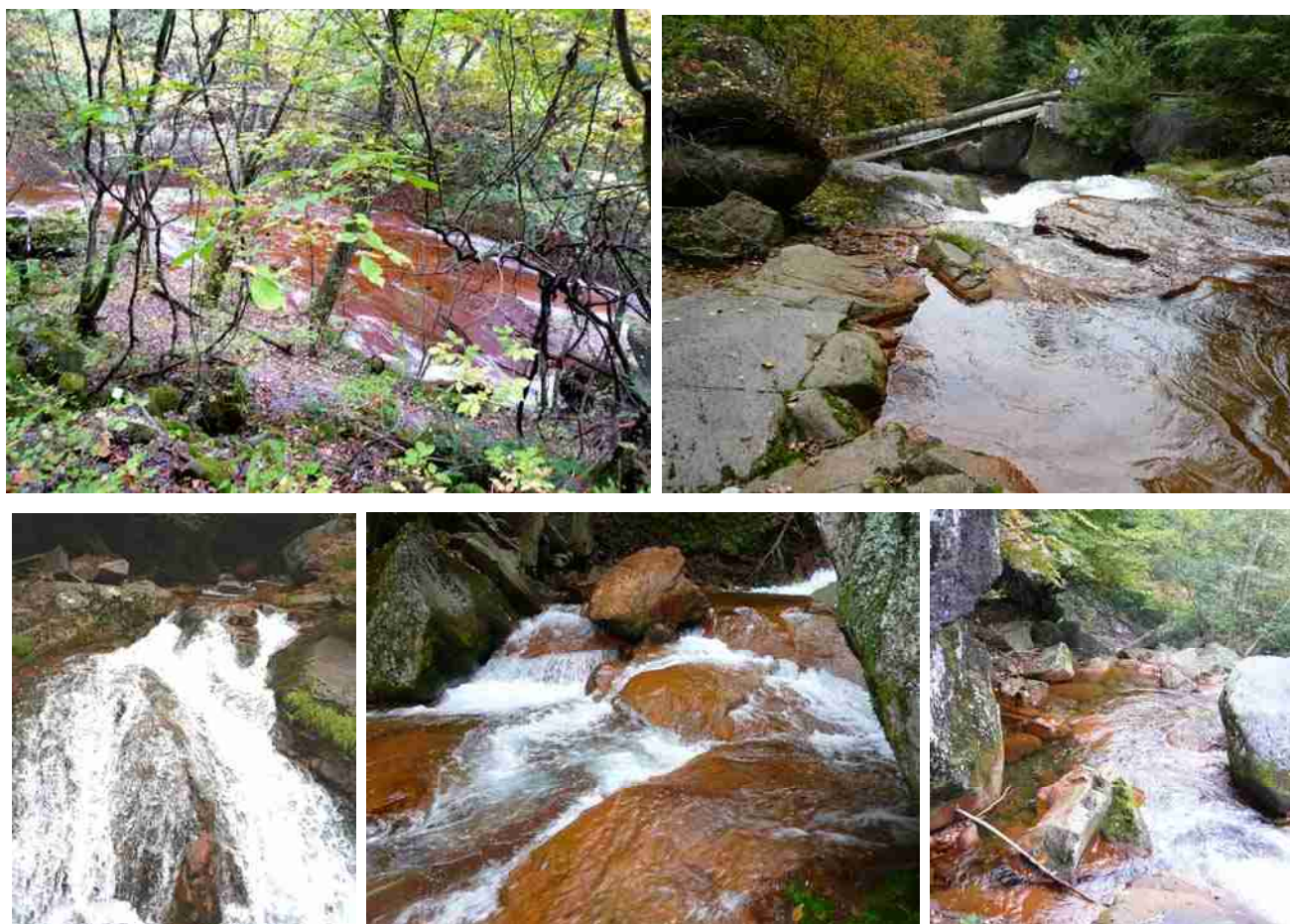


横谷 赤い鉄の谷 横谷溪谷の王者「王滝」 2010. 10. 17.



横谷溪谷「王滝」周辺の紅葉 2010. 10. 17.

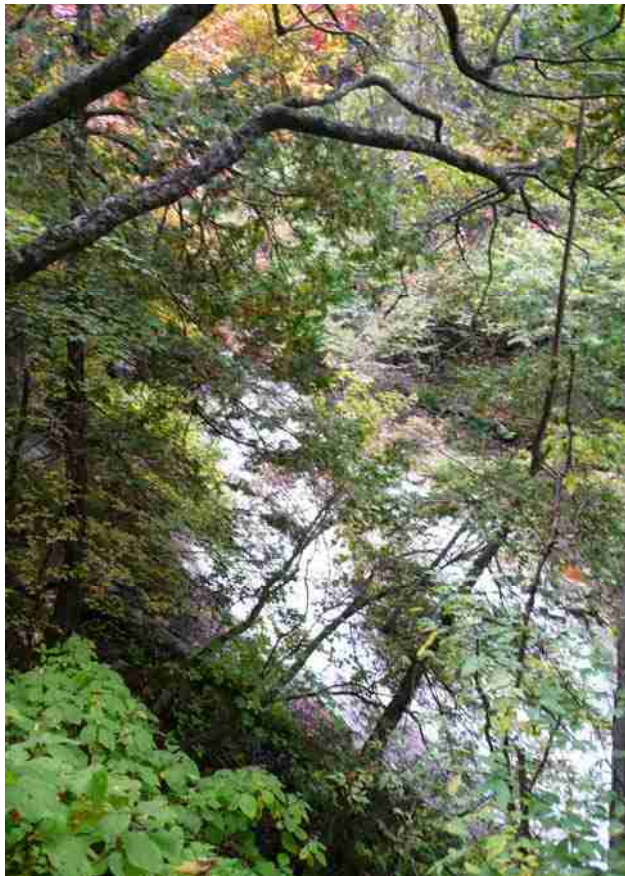
「王滝」のそばでは 川床におりられなかったが、その直ぐ下で 川床まで降りることが出来ました。
 この王滝から下の横谷温泉までのあたりでは、川底全体が鉄分で褐色にそまっていて、一番「鉄の谷」の様相を示しているようだ。 下の写真の直ぐ下流側には川床全体が一枚岩で、その表面全体が褐色で そこを透明な水が流れ下る「一枚岩」の名所もありました。



王滝から下の横谷温泉までのあたりは、川底全体が鉄分で褐色に 一番「鉄の谷」の様相を示している
 2010. 10. 17.



横谷溪谷 一枚岩 2010. 10. 17.



横谷溪谷 屏風岩周辺で 2010. 10. 17.



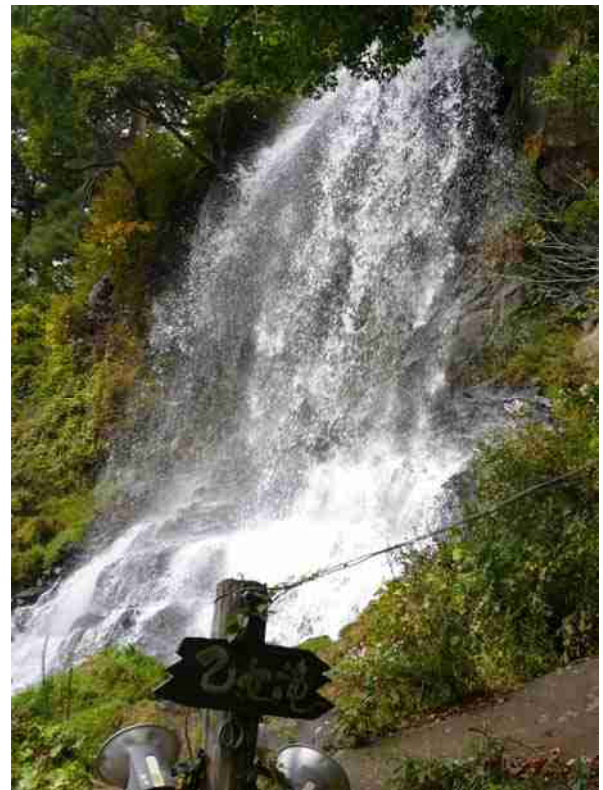
横谷溪谷 鶯岩



横谷溪谷 霧降の滝 滝左端 褐色なのは横谷温泉の御泉水の流れ込み



横谷温泉下 横谷溪谷 渋川の流れ



乙女の滝 江戸時代に作られた用水 人工の滝と聞く

明治温泉入口から横谷溪谷にはいって、約2時間 ちょうど紅葉が溪谷を彩る赤い鉄の谷「横谷溪谷」のwalk。本当にびっくりの楽しい溪谷でした。褐鉄鉱山諏訪鉄山の褐鉄鉱露天掘りの鉱区の山を流れ下る渋川が作る溪谷。

この川沿いの古い温泉は鉄分が析出で褐色に染まる鉄泉 そして 褐色の川床に行くもの滝がかかる。

みずずかる信濃の国の「鉄」この蓼科中央高原一帯に埋まっている「鉄・褐鉄鉱」を象徴する素晴らしい溪谷でした。

残念ながら 明治温泉も横谷温泉も日帰り入力の時間が制限されていて 入ることが出来ませんでした、ご機嫌。

後は 鉄山入口まで一旦下って 旧諏訪鉄山の遺構や地形を楽しみたい。また、鉄山跡から湧出した鉄分を含む「石遊の湯」に入るのも楽しみ。

12 時前に横谷峡入口まで来ると今日はこの地にある武田信玄ゆかりの木戸口神社の御柱祭御柱がまもなく到着するので、その準備がすすめられていました。



横谷峡入口の木戸口神社

3. 鉄山口から諏訪鉄山跡 そして 鉱山跡に湧き出る鉄泉「石遊の湯」を訪ねる



旧諏訪鉄山の入口 金山入口より蓼科中央高原遠望 写真右手 金山〔金堀場地区〕



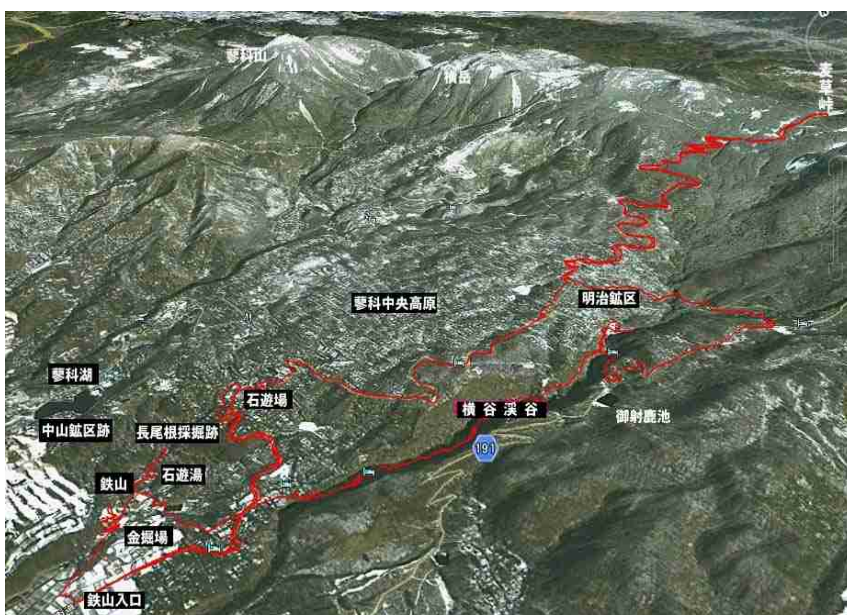
横谷溪谷から一旦メルヘン街道の鉄山入口まで下って、ここからいよいよ旧諏訪鉄山の地に入って、旧諏訪鉄山を眺める。

ここまで、降りてくるともう 山の中にあるイメージはない。蓼科山の南西山麓に広がる広大な高原のまっただ中。

なだらかなスロープの畑が続く高原の奥へまっすぐ伸びるメルヘン街道。その右側に北八ヶ岳の峰 左側に南八ヶ岳の岩峰が頭をのぞかせている。この左手側 全体の山の中腹まで旧諏訪鉄山の掘削地や鉱石の集散地の諸施設が広がっていたという。

この「鉄山入口から 左側へ丘の中に入ったところが、旧諏訪鉄山の中心地 金堀場。現在

集落の奥に鉱山から出た温泉「石遊の湯」がある。また、この鉄山から掘り出されたのは、褐鉄鉱。いたるところで 褐鉄鉱の露頭がみられ、露天掘りでの鉱石採掘が行われたという。太平洋戦争中の鉄不足を補う鉱山として隆盛を極め、戦後 衰退していったという。この一帯は現在 蓼科中央高原とよばれ、高原全体に大別荘地が広がっている。



この地の国土地理院の5万分の一の地図並びに google earth の衛星写真を見るとこの中央高原全体がなだらかな傾斜を持つ平坦地になり、この蓼科中央高原の両側が八ヶ岳の尾根筋の山壁が幾重にも見えるのと対照的で、きわめて人工的である。ちょうど 中国山地の山砂鉄採取地跡が、山中に忽然と草原となって現れるのによく似ている。

(たとえば 奥播磨 砥峰高原・野々隅原 奥備中 千屋高原 芸北 吾妻山山麓 等々)

この原因が 旧諏訪鉄山の褐鉄鉱露天掘りにあるのか、高度成長期の別荘開発ブームにあるか、それとも自然のなせるわざなのか 定かではありません。しかし、諏訪鉄山は 戦中の鉄不足解消の大鉄山だったようだ。

インターネットで見つけた「諏訪鉄山散策ガイド」などで旧諏訪鉄山の遺構などで関連地の位置がだいたいわかっているの、それを中心に訪ねる。

【参考 諏訪鉄山の概要】

諏訪鉄山の概要は下記資料に簡潔にまとめられていますので、下記にアクセスください

1. 企画展 諏訪鉄山 ハケ岳総合博物館

http://seseragi77.web.fc2.com/img/chirashi_ura.pdf

2. 諏訪鉄山散策ガイド 諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会

<http://www.tateshinachuoukougen.com/tetuzan.html>

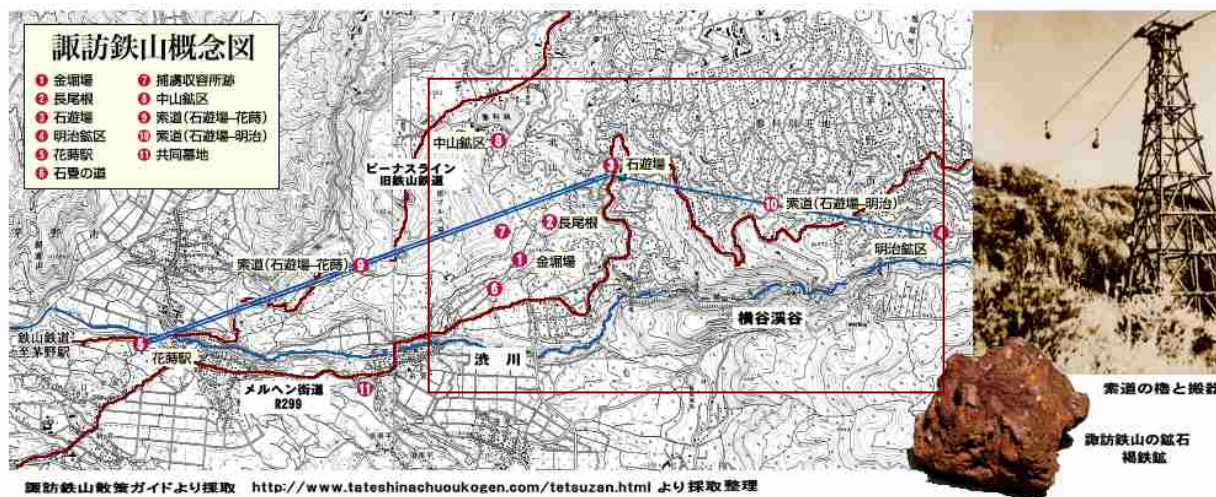


金山入口から 左手 北へ入ったところが旧諏訪鉄山の一つの中心地「金堀場」で、その奥が褐鉄鉱の露天掘りが行われた長尾根採掘場跡。 金堀場跡と長尾根採掘場跡の間には「石遊の湯」温泉があり、かつての鉱山から噴出した湯だという。また、この、石遊の湯から北へ蓼科湖の畔には中山鉱区跡がある。

「金堀場」から 鉱石はトラックで、現在の国道 299・メルヘン街道を通して茅野に運ばれた。

この金堀場の北東へ登ったところ現在のメルヘン街道が横谷峡入口から北へ山腹をの登った「緑山入口」周辺が、旧諏訪鉄山のもう一つの中心「石遊場」で、ここにも鉱石を集積して積み出すホッパー設備である万石場跡が残っている。そして ここから、東の明治鉱区並びに西側鉄山の更に下の「花蒔」まで索道がつくられ、鉱石が運ばれていた。

また、「花蒔」から茅野まで現在のロマンチック街道には鉱石輸送専用の鉄道が走っていたという。



まず、金堀場から長尾根採掘場まで行って「石遊の湯」の温泉に入って、それから 一旦メルヘン街道に出て、石遊場にまで登る予定である。12時半 「鉄山入口」から左手 北への道を鉄山に入ってゆく。

畑の奥 こもりとした林の見える向こうが鉄山地区。 ちょうど背後にうっすら蓼科山が見える。



メルヘン街道 鉄山入口周辺から見た「鉄山地区」

鉄山 金堀場の諸施設概念図

中央の林の後ろ隠れているところが 鉄山・金堀場地区である

鉄山入口を北に曲がって 畑の道を糸萱からまっすぐなだらかな傾斜を登って森に入ってくる道に合流する。森に差掛ったところに鉄山の案内板が掛けられていて、この糸萱と金山を結ぶ道がかつて 鉱石をトラック輸送した道で、アスファルトの下には輸送トラックの重量に耐えられるように建設された石畳の道が眠っている。



鉄山の鉱石トラック輸送の道でアスファルトの下に石畳の道が眠る

この石畳の道が抜けてゆく森は小さな丘と丘の間を濡れてゆく道で、左手にユースホステルの横を抜けるといくつかの丘に囲まれた広い比較的平坦地になり、ここが現在は北山の地名の小さな集落 かつての金堀場である。

ユースホステルのところを抜けたすぐ右手山際が広場になっていて、山際にそって 高さ数m 草で覆われた石組が走っているのが見え、道の奥はその奥で少し、広くなった平坦地になっている。

この石組がかつての諏訪鉱山 金堀場の万石跡。

かつての鉱石集積ホッパーで、ここからトラック輸送された遺構である。

この奥が金堀場地区で道がまっすぐ奥へ伸びている。この道の両側にかつては事務所・飯場・売店など鉄山の諸施設が立ち並んでいた。今はそんな鉱山のかげらはみじんもなく静かな明るい集落である。



ユースホステルが傍に建つ金堀場地区への入口



かつての金堀場・現在の北山集落



金堀場万石跡



諏訪鉄山の鉱石の集散ホッパー施設 金堀場万石跡 ここからトラック輸送で運び出された 2010. 10. 17.



周囲を丘で囲まれた まるで隠れ里 かつての鉄山・金堀場・現在の北山集落 明るい美しい里でした
この道の両側に かつての諏訪鉄山の諸施設が建っていた

万石跡の横からさらにまっすぐ奥に伸びる道のかたわらに、木立ちに包まれたしゃれたイタリア レストランがあり、お客を送り出したオーナー夫妻が、ぶらぶら歩いてくる私を不思議そうに眺めている。



今は静かな林に包まれた別荘地 旧諏訪鉄山の一角 鉄山・金堀場(現在の地名は北山)に
林に包まれた素晴らしいレストラン レストラン「マハロカフェ」がありました お勧めです
「この近くの山神様へ行く道 教えてほしいの ですが・・・??」

「すぐそこを左に入ったところ 昨日 山神様の御柱祭に参加したとこよ」と気さくに 山神様について、教えてもら
う。ちょうど昼時 このレストランで昼食をとらせてもらいながら、この周辺の地理や諏訪鉄山のことなど色々情報を聞
かせてもらった。 こんな 山中で おいしいイタリアンのランチが取れるとは・・・。

東京から脱サラで気楽な店を開かれたそうで、本当にすがすがしい気持ちで 諏訪鉄山の中を歩きだす。

このレストランからすぐの左手への小道に 手書きで山神様への矢印標識がありました。

このわき道を左にはいって、林へ向かって登ってゆくと、山際に集会所があり、その奥の林の中に小さな社があり、それが山
神様。 社の前には諏訪大社の御柱とは比べ物にならないが、小さな柱が4本立っていました。

また、ちょうど集落の西端の高台 集落が見渡せ、緩やかなスロープに挟まれて 先ほど歩いてきた道がまっすぐ奥へ伸びて
いる田園風景。 その丘の上にハケ岳の峰々がちょこんと頭をのぞかせていました。



山神様へ登る小道が左に



山神様への道の途中から見る金堀場の集落



集落の西端の高台の林の中に山神様

山神様のすぐ下の集会場の窓には 山神様の概要や地元の人たちによる諏訪鉄
山 万石跡の整備の新聞記事が掲示されていました。

今も地元の人たちによって、この山神様もよく整備され、祭りが守られていると
ともに、もうなくなってしまっ約半世紀を経る諏訪鉄山が愛されていることに
びっくりでした。

なお、私は「やまがみさま」と言うのだとおもっていましたが、
正式には「さんじんさま」でした。



山神様のところから金堀場の
丘〔平坦地〕を眺める
右手に下れば万石跡より鉄山
入口 左手に登ると石遊の
湯・長尾根採掘場跡



石遊の湯側から金堀場を眺める
正面左手の森の向こうが万石跡
正面奥山神様の位置である

旧諏訪鉄山の中心地 金堀場の今 2010. 10. 17.

元の道に戻ってさらに登ってゆくと集落を抜け、高い樹木の林の中にはいて、正面に交差する十字路
細い道ですが、左へ行くと蓼科湖そしてそのそばにある旧諏訪鉄山 中山鉱区跡 右に行くと鉄山入口の少し上のメルヘン街
道に出る。道を横切って少し上ると石遊の湯である。



蓼科湖・旧中山鉱区への道との十字路 正面石遊の湯・長尾根採掘跡への道

道を横切って少し上ると正面ちょっと広くなった場所の右手に「石遊の湯」が見える。石遊の湯の横をさらに奥へ 旧諏訪鉄山 長尾根採掘跡への行き止まり道が伸びている。



石遊の湯

この周辺は諏訪鉾山「石遊鉾床」の露天掘りが行われた場所で、そこから湧出した温泉なので「石遊の湯」と名付けられた。文字通り諏訪鉾山の湯である

諏訪鉾山 石遊鉾床の周辺から湧出した温泉「石遊の湯」で この場所周辺は褐鉄鉾の採掘現場であったという
「石遊の湯」のすぐ横からまっすぐ奥へ長尾根採掘跡への行き止まり道が伸びている

この長尾根採掘跡へ行くには「石遊の湯」の許可をもらうよう聞いたので、受付で声をかけて 奥へ行く。

10分ほど奥へこの道を行くと行き止まりで、そこに案内標識があり、雑木林の中 一段降りたところが、雑草が生い茂った広場状の湿地になっていて、崖の傍らに案内板。ここが長尾根採掘場跡でした。

褐鉄鉾がころがっていないか、探しましたが ここではよう見つけませんでした。



「石遊の湯」のすぐ横からまっすぐ奥へ長尾根採掘跡への行き止まり道

長尾根鉱床採掘跡（ながおねこうしょうさいくつあと）

長尾根鉱床は金掘場と石遊場の中間に位置し、長径600m幅170m厚さは最深で6m以上あったと記録されています。独立した鉱床としては最も規模の大きい鉱床でした。昭和15(1940)年頃から採掘が始まりました。金掘場・長尾根を併せて糸置鉱床とも呼ばれていました。

諏訪鉄山の鉱床は露天掘り、手掘りで採掘されていました。掘り進むごとにトロッコのレールが敷かれ、木造の万石が建設されました。



企画展「諏訪鉄山」

期： 第1期 平成21年7月18日(土)～10月4日(日)
ところ： 茅野市ハルニ山総合博物館 TEL 026-6500



旧諏訪鉄山 長尾根鉱床採掘跡（上下写真は 同じ場所を角度を変えて撮りました）

もとの「石遊の湯」に戻って 温泉につかる。この温泉は 日帰り温泉なので、気楽にはいれる。

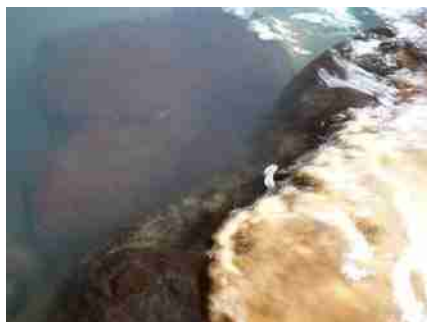
諏訪鉄山の褐鉄鉱の採掘現場から、噴出した温泉。文字通り旧諏訪鉄山の湯である。

実は 褐鉄鉱山から湧き出したお湯なので、褐色に変色した鉄泉かと思いましたが、「ナトリウム―塩化物炭酸水素硫化物泉」だという。ちんぷんかんぷんですが、鉱床から噴出した湯らしく、数々の成分を含んでいて、64℃の高温で噴出したのを加水ではなく 冷まして使っていると。鉄分がどのくらい含まれているのか、よくわかりませんが、やはり空気に触れると水酸化鉄を沈殿させ、湯船の岩肌や底に細かい褐色の鉄系の沈殿物がたまっていました。また、受付にいる管理の人が言う

には、加水せず空気で冷ます時に、大量に鉄分が出てきて、フィルターがすぐに茶色になると、受付の後ろにある泉源小屋の入口を開けてくれて、温泉の配管やフィルターを見せてもらいました。本当にフィルターは鉄分で抹茶。また、ここで採取された褐鉄鉱のかけらを一つ ひょいいただきました。



諏訪鉄山跡から湧出した石遊の湯 2010. 10. 17.



お湯は透明なのですが、
湯船の底や石に赤茶色の鉄分が付
着したり、沈殿していました。

諏訪鉾山跡 石遊の湯

2010. 10. 17.



空気冷却でまっ茶になった
温泉配管フィルター



外の配管もまっ茶でした

「石遊の湯」は空気に触れると含まれた鉄がまっ茶色になり、フィルターの掃除が欠かせないと
温泉管理人の方に源泉小屋の中の配管フィルターを見せてもらった 2010. 10. 17.

この 旧諏訪鉄山の中心地 金堀場から石遊の湯周辺には もうほとんどその痕跡はなく 静かな山郷の別荘地である。
しいていうなら、この「石遊の湯」とこの美しい静かな山郷の別荘地をつくりだした地形かなあ・・・と
時間は 午後2時半前 もらった褐鉄鉱のかげらを眺めながら、そんなことをイメージしながら、鉄山を後にして
森の中の小道を別荘地が広がる横谷峡入口下の「滝見平ビレッジ」入口のメルヘン街道へ下りました。
もう一つ見ておきたい場所 横谷峡入口からメルヘン街道を上に登った山腹「石遊場」に残る石遊場の万石跡へ向かう。



石遊湯から南東 横谷峡入口下の「滝見平ビレッジ」入口のメルヘン街道へ向かって 森の中を下ってゆく。

メルヘン街道を登りだすとちょうど木戸口神社の「御柱祭」を済ませた一行が下って来るのに出会った。

残念ながら 木戸口神社の「柱立て」をみることはできませんでしたが、7年に一度の御柱祭 諏訪地方の一大イベントに出会えたのもラッキーでした。

まもなく 今日3回目の横谷峡入口。今朝バスで登っていたメルヘン街道を蓼科中央高原の上への尾根筋を登ってゆく。



木戸口神社の「御柱祭」を済ませた一行 滝見平で

地図を見るとメルヘン街道は横谷峡入口から枝尾根を登って緑山で蓼科中央高原の台地の上に上がると渋川が流れ下る横谷峡の上の台地の端を曲がりくねりながら野麦峠に登ってゆく。東西になだらかな傾斜で広がる蓼科中央高原にひつつく南北に延びる枝尾根の端「横谷峡入口」からこの枝尾根を登りきって蓼科中央高原の縁に出たところが旧諏訪鉾山の中心の一つ「石遊場」である。現在の「緑山」周辺。

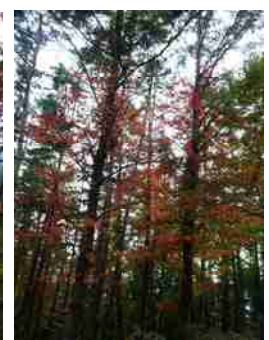


この「石遊場」には 採掘された鉾石の集散ホッパー一万石が築かれ、この高原の南東側下の山腹 明治鉾区と高原の北東下の諏訪鉄山鉄道駅「花蒔」へと索道が空をのびていた。

「石遊場」は地形的にも諏訪鉄山格好の鉾石輸送の中継基地でもあった。

そんな「石遊場」の万石跡が緑山バス停近くの枝尾根の縁にあるという。現在 この広大な蓼科中央高原全体が林に包まれた巨大別荘地で、なだらかな傾斜の森全体に網の目のように小道が張り巡らされている。

(別荘地区画はいびつで基盤の目状でないため、小道と言っても車が通れる道であるが、網目状に張り巡らされていて、しかも 案内板・標識が簡略化され、目印がないので、ポイントを探すのは大変である。高原別荘地の特徴か・・・)



紅葉したメルヘン街道の両側には森の中 別荘地が続く 2010. 10. 17.

横谷峡入口から登り始めて ほぼ 20 分ほどで 左蓼科湖 右麦草峠への T 字路になっている緑山につく。

旧諏訪鉄山の万石跡が向かいにあると資料で読んだホテルやレストランが見える。

メルヘン街道沿いなのですが、歩きながら注意しながら登ってきたのですが、左手の崖側は雑草と樹木でよくわからず。



「緑山」バス停周辺 蓼科中央高原の縁に登り切って道は左蓼科湖 右麦草峠へと別れる

T 字路手前、駐車場脇で メルヘン街道の落ち葉掃除をしている人がいて、「メルヘン街道の T 字路の左脇に崖の下へ回り込んで降りる道があるで、それを行けば、判る」と教えてもらう。

緑山の T 字路脇からメルヘン街道の崖下に回り込むとメルヘン街道の崖下を沿う道となり、この道を入口に別荘地が広がっていました。もっとも こちらの方はちょっと荒れている感じ。

人っ子一人通らぬ崖下の道を少し行くとメルヘン街道沿いの崖の斜面上方に壊れたコンクリート跡が見えました。

それが、万石跡でした。



緑山の T 字路脇からメルヘン街道の崖下に回り込むと メルヘン街道沿いの崖の斜面に万石跡がありました



石遊場「石安場の万石跡」

2010. 10. 17.



「石安場の万石」周辺を整備する保存会員ら。傾斜地土壁に見えるのが阿波橋



石遊場「石安場の万石跡」

2010. 10. 17.



諏訪鉄山 石遊場 配置図 諏訪鉄山散策ガイドより

諏訪鉄山散策ガイドに記されていた「石遊場」のこの万石に採掘された褐鉄鉱が集められ、索道で「花蒔」の諏訪鉄山鉄道駅までおろされた。

この「万石」跡の空を 「花蒔」の諏訪鉄山鉄道駅まで伸びた索道を褐鉄鉱を入れたバケツが行き交ったのだろうか・・・

この「石遊場」もほかの「金堀場」「明治鉱区」などと同様 今は蓼科中央高原の大別荘地として、森の中に埋没している。

諏訪鉄山

現在観光地あるいは別荘地として賑わう 蓼科湖南岸から蓼科中央高原一帯は、第二次世界大戦を挟んだ一時期、日本の鉄不足を補うため褐鉄鉱を採掘する鉱山、「諏訪鉄山」として 2000 名を超える作業従事者が働く場であった。今でも自然とは思われない尾根を切り取ったような地形のなかに、当時の痕跡が残されている。



採掘の様子



採掘の様子



金堀場露天掘りの切羽



索道と搬器



万石からトラックへ



北山線の開通を祝う

当時の諏訪鉄山の様子を伝える写真

八ヶ岳総合博物館 企画展「諏訪鉄山」資料より

この崖下の道の先にも旧諏訪鉄山の痕跡がないかと先までゆきましたが、誰一人いない別荘地が静かに林の中に埋没しているだけで、何もなし。
少し先で このメルヘン街道沿いの道も行き止りとなり、仕方なく崖にある別荘地の一角をよじ登ってメルヘン街道へ

これで 諏訪鉄山を訪ねる walk も終了。
本当に知らなかった褐鉄鉱鉱山とその周辺の景色
長と紅葉とあいまってすばらしい景色でした。



褐鉄鉱が本当に古代たたら製鉄の黎明の時代に製鉄原料として使われたかどうか・・・は判りませんが、山全体が褐鉄鉱の鉱床を思わせる巨大な製鉄原料がこの地にあった。そして製鉄と関係するといわれる「諏訪大社の神と祭」みずずかる信濃 信濃は「鉄の国」。「本当だろうか・・・」と思ってきましたが、実感として そうだったろうと。
午後3時半 横谷峡入口の一つ手前「弓木入口」のバス停に座り込んで、暮れゆく秋の蓼科を眺めながら 満足感いっぱい 帰りのバスを待つ



2010. 10. 17. 夕暮れ 旧諏訪鉄山 諏訪中央高原で
帰りのバスを待ちながら

Mutsu Nakanishi



【 参考資料 】

1. 企画展 諏訪鉄山 ハケ岳総合博物館
http://seseragi77.web.fc2.com/img/chirashi_ura.pdf
2. 諏訪鉄山散策ガイド 諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会
<http://www.tateshinachuoukougen.com/tetuzan.html>
3. ハケ岳の地質及び気候 『ハケ岳 ―自然を楽しもう―』ハケ岳教本編集委員会【編】より
<http://www.kameyahotel.jp/main/study/Learn1.htm>
4. ハケ岳西麓 上川水系 渋川（横谷峡）の滝 滝の地学記録カード
<http://chibataki.moo.jp/kengaitakicard/sibukawa.html#2>
5. 千曲川流域の褐鉄鉱山 柏原鉱山
http://www.janis.or.jp/users/gann/tisitu/100sen/tikasigen/kaiwabara_kouzan.htm
6. 「たたら原料 赤泥」 越の大王 加越たたら より
<http://www3.fctv.ne.jp/~takae-u/kousou1.htm>